

# 平成30年度 あま市平和体験学習報告

終戦から73年の歳月が流れ、悲惨な戦争の記憶が次第に薄れつつある現在、戦争の悲惨さや平和の尊さを学び次世代へ継承していくことを目的として、平成30年度も平和体験学習を行いました。

8月9日(木)・10日(金)の2日間、市内中学生の代表10人は、平和推進事業の先進地である広島県広島市を訪れ、広島平和記念資料館の見学、各中学校の生徒が平和を祈念して折った千羽鶴の献納、被爆体験講話などを通して戦争の悲惨さや平和の尊さを学びました。貴重な体験をしてきた生徒の感想を紹介します。



## 杉浦 壮真 (七宝中学校3年)

僕はこの体験を通して、核の悲惨さ、戦争の愚かさなどたくさんのかつとを学びました。それまで僕は、原爆や戦争に関しては教科書でしか見たことがなかったのですが、自分とは無関係だぐらいの気持ちしかありませんでした。ですが、いろんな場所を回るにつれて、だんだんと身近に感じ、とてもゾツとしたのを覚えていきます。そして、被爆者の生々しい話は、涙が出るくらいでした。この2日で感じたことを、これから人生に生かして、たくさんの人に伝えていこうと思います。



## 増田 羽南 (七宝中学校3年)

私は戦争、そして原爆というものがどれだけ非情で酷いものなのか、わかった気でいました。しかし現実

は、想像よりもずっとひどく悲しいものでした。被爆者の方の話、当時の写真、原爆ドーム。どれもこの世界ではありえないほど悲惨でした。私は血などが苦手ですが、写真をしっかり見ました。すると写真の中の人の叫び、苦しみが伝わってくるようでした。

私たちは今の生活、安心できる今に感謝しなければなりません。そして戦争というものをしっかり伝えなければと思います。

## 鈴木 友哉 (七宝北中学校3年)

「原爆の投下は、再現できない。だからこそ、後世に継ぐ必要がある」と僕はこの体験を通して思いました。投下から73年。想像しがたい惨状を乗り越えて、今生きる僕たちにそれを伝えてくれる方は減り続けています。これからは記憶はなくなる一方です。その中で、僕たちは過去から目を背けず、バトンをしっかり受け取り、記憶をつないでいかなければならないと思いました。

## 吉田 真子 (七宝北中学校3年)

原爆が落とされた時代について学び、今の時代に人権があり、言論の自由があることのありがたさを改め

て感じました。被爆者の方の話を聞いて、戦争があったことを決して忘れてはいけないと思いました。想像したい原爆の悲惨さをより多くの人を知り、しっかりと過去にあった事実を受け止めていくことが大切だと思います。貴重な体験ができて本当に良かったです。

## 吉川 侃汰 (美和中学校3年)

今回の体験学習を通して、原爆の恐ろしさや戦争の悲惨さについて学ぶことができました。僕は、初めて被爆者の方から講話を聞きました。戦争を実際に経験された方だからこそ、その生々しさが感じられました。僕たちには、その生々しい戦争の記憶を語り継いでいく使命があります。「僕たち一人ひとりが戦争や原爆について、より詳しく学ぶことが重要になるのではないかと貴重かな」と貴重な2日間を通して、そう思いました。



## 三好 香凜 (美和中学校3年)

たくさんの建物と輝く緑、人の流れが絶えない活気溢れる広島。そこにたたく骨組みだけが残された痛々しい原爆ドームを前に、私はただ圧倒されました。73年前、この場所で一瞬にして老若男女問わず、たくさん命が失われたことの恐ろしさと平和の尊さを強く感じました。私が大人になったときにはもう被爆者の方に



直接お話を聞くことはできないかもしれませんが、だからこそ、私たちが戦争の記憶を語り継いでいく必要があると感じました。

## 竹内 大喜 (甚目寺中学校3年)

今回の体験で僕は、今までは情報・知識としてしか知らなかった原爆に対して、はつきりとしたイメージがもてるようになりました。資料館で現物の資料を見て、本当の原爆

というものを知ることができたと思います。けれども、一番心に残っているのは、被爆者の方から直接聞いた話です。本やインターネットとはまるで違い、一言一言に重みがあり、なかでも、被爆者の家族が書いた手紙を読んでいただいたときに、原爆の恐ろしさを感じました。このようなことがもう二度とないことを心から願っています。

## 小田 晴日 (甚目寺中学校3年)

体験中、私は何度も命とはなにか、平和とはなにか、と考えていました。以前の私は、原爆について深く考えていかなかったと思います。でも、私の原爆のイメージを大きくかえるものが平和記念資料館にありました。特に印象に残ったのは「原爆がなかったら、僕らには別の人生があった」という言葉です。この言葉を聞いたときに、一瞬にして多くの人の人生を壊した原爆を恐ろしく思うとともに、私の人生のすべてがともも大切に感じられました。

今回学んだことを、私は一生忘れず、多くの人に伝えたいです。

## 那須原 拓実 (甚目寺南中学校3年)

最も衝撃だったのは、被爆者の方

の話です。中でも、自分の大事な人が皆死んでしまった人が「自分は罪のある人間だ。生き残ったことを恥ずかしく思った」と聞き、せつなく助かったのに生きることに絶望する過酷な状況に胸が締め付けられました。

## 今なお、



強烈な放射線により母親の中にいた子どもに障害が残っています。このように原爆の負の遺産が存在しています。原爆は悲惨な非人道的兵器だと語り継ぐことが平和のために必要だと強く思いました。

## 大橋 涼風 (甚目寺南中学校3年)

一番痛感したことは、命の儚さです。原爆が奪っていった尊い命。生き残っても体と心に癒えることのない傷を負ったと思います。私たちに講話をしてくださった方は「原爆の時、なぜ死ねなかったのか」「別の

## 「平和の署名」を届けました

「平和の署名」にご協力いただきありがとうございました。集まった1,457筆の署名は平和体験学習で広島市を訪れた中学生により広島平和記念資料館へ届けました。

問合せ先 企画政策課 ☎444・1712